

【学級活動・中1・「人権について考えよう」①】

育成を目指す資質・能力

受容的な自己表現(アサーティブ)を用いながら、他者と協働して自己の生活上の課題解決に向け話し合い、多様な意見をもとに自ら意思決定することができる。

ICT活用のポイント

ムーブノートを活用し、自他の考えの良さや違いについて気づいたり質問し合ったりする場面を設定することで、折り合いをつけながら合意形成を図ることができるようにする。

導入・見通しの場面 (一斉)

1 全体で課題把握
静止画や動画、データを示し、学習課題を見出す。
既習事項を思い起こす・問題解決の見通しをもてるようにする。

追究(展開)の場面 (グループ)

2 グループで権利の熱気球を考える
手書きのワークシート、タブレット上での意見交換等、異なる考えを提示し、生徒の新たな発見を促す。

まとめの場面 (グループ・一斉)

3 全体でグループで選んだ権利を発表する
一人一人の考えを拡大表示し、即座に共有する。
デジタル化されたワークシートを回収し、学習内容の定着を把握する。

<場面・状況・目的>

学習課題

「空気がぬけて落下しそうな気球を救うために、最後に残す権利を5つ選び、優先順位をつけ、その気球に名前(大切にしたいテーマ)をつけよう。」

【ICT活用の場面と目的】

- ・ 関心、疑問、矛盾等から学習への必要感がもてる動機づけ・解決の方法や手順、表現方法等の追究の見通しをもてるようにする。
- ・ 自分なりの追究の方法や手順等を選択したり決定したりすることができるようにする。
- ・ グループや全体での話し合いにおいて、一つの結果を導き出すというのではなく、自分の考えを整理したり、他者の考えを理解したりすることができるようにする。
- ・ アサーティブな自己表現を用い、自分も相手も大切にしたい自己表現をすることができるようにする。
- ・ グループ内での発表後、自分と異なる考えをもつ人がいること、多様な考え方があること等に気付いたり、理解したりできるようにする。
- ・ 相手の考えを認めることだけでなく、自分の考えを伝えることができた良さを実感できるようにする。

【学級活動・中1・「人権について考えよう」②】

【ICT活用の場面①】



【ICT活用の場面②】



学習過程と事例におけるICT活用の場面との関係

【導入・見通しの場面】

○学習問題の想像の具体がもてる画像・動画の提示

- ・人権について身近な生活を振り返りながら自分事として捉えることができた。
- ・事前アンケート結果や資料の提示から、一人一人が人権を身近にある大切なものとして捉えることができた。
- ・「何を学ぶか」「どのように学ぶか」等、課題を追究する見通しをもつことができた。

【追究(展開)・まとめの場面】

○ICTで簡潔な指示や説明を行い学習内容や手順等の理解

○学習支援システムを使ってグループでまとめた意見や結果を拡大し提示

【ICT端末を効果的に活用するためのポイント】

- ・ICT活用の場面と板書の場面との役割を明確にした。
- ・ICT活用では、「何をさせるか」、「何を考えさせるか」を明確にした。
- ・ICTを利用するルールづくりを日頃より継続して進めているため、ネットリテラシーや情報モラルを意識した学習活動が展開できた。

【児童生徒や教師にとってのICT活用のメリット】

○教師

- ・大型電子黒板を活用し、大きく映し焦点をあてることで、指示・説明・発問の意図を明確に伝えることができる。
- ・言葉での説明が難しい内容を伝える時、映像で手順や模範を示す等、具体の指示や説明を明確にすることができる。
- ・円滑な画面切り替えで、効率よく授業を進めることができ、時間短縮で生じた時間を、新たな場の設定や考えをまとめる時間として有効に活用することができる。

○生徒

- ・情報の即時性や即時提示することができ、自分の考えや思いによって学習を進めることができる。
- ・友達とつながり、様々な考えを知ったり理解したりすることができる。
- ・個やグループの考えを並べて提示し、比較や分類、関連づけを行いながら追究することで、思考の幅を広げることができる。